

ビッグウェーブを見る

ハワイ・マウイ島の青い海は、その日の天候・時間帯によって様々な色に変化する。海岸線を走っていると、波打ち際ギリギリのところの家が建っていた。一見大きな波が来ればすぐに流されそうで、あまりにも危険に思えた。しかし地元の人に言わせると、サンゴ礁が沖のほうまで生えており天然の防波堤になっているとか。

一方、場所が変わってマウイ島の北に位置するノースショアに行けば、様子がガラリと変わり台風のような大波が次から次に押し寄せてくる。ここの波の高さは世界でも最高峰といわれている。それは北太平洋のアリューシャン列島（アラスカ半島からカムチャツカ半島にかけての2000kmに渡る弧状列島）付近の、低気圧によって発生した波が南下してハワイ列島に到着したものである。

この波を求めて世界中から多くのサーファーがここにやって来る。もともとハワイ先住民が広く愛好していた遊びであったサーフィン。その後、楽園ハワイの映画が大量に制作される中で、サーフィンはマリンスポーツとして若者の間で大ブレイクしたのである。

1960年以降、ノースショアを舞台にビッグウェーブ・サーフィンは全盛を迎え、デューク・カハナモク（ハワイ先住民のオリンピック水泳選手、サーファー）を記念するサーフィン大会が開催される。そしてハワイから多くの名サーファーがここから誕生していった。大自然の中で波と共に繰り広げられる勇姿は、誰もが憧れるスポーツであるようだ。 撮影 2010年冬

